

米中仏の4大7学生

夏期日本語・日本事情プログラムに参加中の学生が7月29日、憧れの弓道を体験した。米オレゴン大学など米中仏の4大生7人で、「日本の武道にふれてみたい」という熱望に弓道部がこたえ、上半身だけ道着を着用しての体験試射に挑戦した。

部員の模範演武を観賞した後、参加者は部員と1対1で練習を開始。はじめは練習用のゴム弓で、流れをつかんだところで本物の弓と矢を構えて一連の動作を繰り返して確認。25分練習し、射場の芝生に下り立った。

的に当てる弓道の楽しさを味わってもらおうとの部員の計らいで、本来の射距離28メートルを約4分の1に縮めて的(直径36

憧れの弓道を体験



真剣なまなごとしての狙う

「世界でも最も激しいフットボール」といわれるオーストラリアンフットボールの世界大会「インターナショナルカップ2014」(8月9日開幕、豪州メルボルン市)に、オーストラリアンフットボール愛好会「専修パワーズ」の選手8人とスタッフ1人が、日本代表「サムライズ」の一員として参戦している。

オーストラリアンフットボール世界大会日本代表「サムライズ」

専修パワーズの9人参戦

同カップは3年に1度の開催。サムライズは02年大会から5大会連続の出場で最高は08年大会の

専大杖道会4階級制覇 東京都大会で大活躍



二段の部優勝の大澤(左)田中組



4階級を制覇した専大杖道会

専大杖道会のメンバーが大活躍——7月19日、東京・足立区の東京武道館で開かれた第26回東京都杖道大会(東京都剣道連盟主催、東京新聞など後援)で、専大勢は全8階級(八段以下)以下の部(部)のうち4階級を制覇する快挙を成し遂げた。専大杖道会の優勝者は次のとおり(敬称略)。

【初段の部】加藤千智文(2) / 杉崎千春法(2) / 一級以下の部)日向弘

【二段の部】大澤里美文(4) / 田中淳子(同)

【三段の部】加藤千智文(2) / 杉崎千春法(2) / 一級以下の部)日向弘

征(法一) / 幕田龍輔(経の山崎真美さん(商3)。同会顧問の宇都築子人間科学部長(錬士六段)は「古川瞬也師範(範士八段)、副師範の榊井一之、上田敦子両教士七段の高段者から指導いただいたのは、大きな強み」。この勢いで10月5日の全国大会に臨み、来年度にもつなげたい」とさらなる活躍に期待する。

※杖道は、400年の歴史を持つ棒術の一種。防具を使わず、2人1組で一方が杖、他方が木刀で立ち向かい、指定された立ち合いの形を2組が同時に演武し、正確さ、早さ、鋭さなどを競う。



生田で海外留学 国際交流フェア

留学や国際交流に興味のある学生に、留学から帰国した学生や外国人留学生が経験や情報を伝える「第11回専修大学海外留学・国際交流フェア」が7月5日、生田キャンパスで開かれた。

参加学生からは「留学を前向きに考えたい」「現地の様子が詳しく分かり、参考になった」などの感想が寄せられた。

14年度中期 留学生6人

2014年度中期留学プログラム(英語、中国語、スペイン語の3コース。いずれも後期)の留学生6人が決定した。留学先と派遣期間、氏名は次のとおり(敬称略)。

●ネブラスカ大学リンカーン校(米国、8月23日〜12月15日)

●上海大学(中国、9月13日〜2015年1月25日)

●イペロアメリカナ大学(メキシコ、8月6日〜12月8日)

●福本詩乃(文)



世界大会に臨んだメンバー(前列左から恒遠、関根主将、松本、佐々木。後列左から石井マネ、田邊、佐藤、左右田)



日本代表の練習でハイマークを決める田邊さん

2回目の出場となる田邊さんは「前回の悔し涙をバネに、今回はチームの中心として頑張りまじ」と、佐藤さんは「前回感じた世界との距離をどれだけ詰めることができるのか、楽しみです」とコメント。また、「日本代表として強い気持ちでプレーしたい」(左右田さん)、「得意のランニングプレーで世界と戦いたい」(松本さん)など、選手たちからは力強い言葉が寄せられた。

※オーストラリアンフットボールは、1チーム18人。楕円形のボールをゴールに蹴り込むことで得点となる。ボールを運ぶ手段は「キック」「ハンドパス」(握りこぶしでボールをはじく)「ランニング」(15メートル以内ドリブルなどで一度地面につけなければならぬ)の3種類。

守備側はパスカットやラグビーのようなタックルでボールを奪う。「ハイマーク」と呼ばれるプレーが最高の見せ場。15メートル以上離れた選手からのキックを、体をぶつけ合いながら空中でキャッチする。



大林守国際交流センター長(中央)と中期留学生

●イペロアメリカナ大学(メキシコ、8月6日〜12月8日)

●福本詩乃(文)